

平成30年度

彦根市立城北幼稚園



瞳キラキラ城北っ子

園児数 3歳児：25名
4歳児：20名
5歳児：24名

職員数 12名

住所 〒522-0002

彦根市松原町3751-3

(TEL) 0749-24-2522

(FAX) 0749-27-6269

開園 昭和54年4月<創立40年>



1. めざす子どもの姿

瞳キラキラ城北っ子

よく見て、
よく聞いて、
よく考える子

【考える力・
自己表現力を育てる】

- ・したこと、感じたこと、思ったことを言葉で伝え合う楽しさを感じ取る。
- ・自然や人に進んで関わったり、身近な物を使って遊んだりしながら、自ら考え行動する力を育てる。
- ・人の話を静かに聴き合える態度を育てる場を充実させる。

自分も
人も
大切に
する子

【豊かな心・
人間関係力を育てる】

- ・お話や読む聞かせを通して聞いて、お話しに共感・同化させたりして豊かな心を育てる。
- ・飼育栽培活動を通して慈しむ心や命を大切にする心を育てる。
- ・『一園一約束：気持ちのよいあいさつ』の習慣化を図る。

夢中になって
遊ぶ子

【健康な生活態度や
体力を育てる】

- ・体操・マラソン・全員を使った遊び等の継続的な取組を通して健康な心と体を育てる。
- ・健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣、運動習慣を育てる。
- ・共に遊び、共に学ぶ体験を通して尊重し合える集回づくりに努めるにつけさせる。

2. 特色ある教育活動

<5歳児>
こいのぼり 天高く およいでるよ！



5歳児がこいのぼりをつくって
園庭をスイスイとおよいでいます
お城からも見えたよ！！

<4歳児>
自分たちでつくった こいのぼり！



風をうけて くるくるまわるよ！

<3歳児>
こいのぼりのお面をつけてビュー！



5歳児さんが作ったこいのぼりの下を
お面をつけて走る 元気な3歳児！！

砂遊びって楽しいなあ



3歳も4歳も5歳も
砂遊びが大好き！！

野菜がたくさん とれたよ！



5歳児がお世話しているスナップ
エンドウ ゆでて柔らかくして
うさぎ組もいちご組も美味しく
いただきます

夏野菜でカレーパーティー！



4歳児がタマネギの皮むき！
5歳児がお母さんと一緒に材料を
包丁で切ります
美味しいカレーの出来上がり！
みんなでカレーパーティー！！

雪・雪 たくさん降りました！



雪は大事な 遊び道具！
みんな 大喜び！！

サンタさんも見てる



クリスマス会の出し物

3. 保育を支えるPTA活動・地域交流

きれいにしてくれてありがとう



PTA会員全員で草刈り、溝掃除

おもちをはやく食べたいなあ



「よいしょ。よいしょ。」
おじいちゃん、おばあちゃんと
一緒におもちつき！

お母さん がんばって！



保護者の出し物「ブラックライト
シアター」 in お楽しみ会

きれいな音だね！



近江高校ブラスバンド部の
演奏を聞くのが楽しみ

4. 園内研究



(1) 研究主題

『 夢中になって遊ぶ子どもをめざして 』

— 子どもの学びの過程を活かした保育を探る —

(2) 主題設定の理由

本園の子ども達は家庭で、大人に合わせた生活時間を送り、同年齢の子ども大人とのかかわりが多く、家の中でテレビやゲーム機に向かっていている時間が多いようである。

そのような子ども達が初めて集団生活に入ると、中には気持ちや感情の高ぶりがあり、意思をうまく表現できず、怒り出したり、走り回ったり、手を出してしまったりして、一旦テンションが上がると、なかなか気持ちの切り替えがきかない子ども達もいる。

本園の子ども達は、人とつながる喜びや楽しさを感じる事が少なく、自分の思いを人にうまく伝えることができなかつたり、相手の思いを十分に聞くことができなかつたりとコミュニケーション力の乏しい子どもの姿が気になるところである。また、恵まれた生活の中で、子ども達はちょっとしたことにくじけたり、あきらめたり、意欲をなくしたりと立ち向かっていく力が弱い傾向がある。

そこで、本園では、いろいろな活動や生活において、夢中になって遊ぶ子どもの姿の育成を研究の主題とした。幼稚園という集団生活の中で、自己を十分に発揮し、コミュニケーションを通して人とかかわることを大切にし、ともに成長しようとする姿が生きる力を育むことになると考える。

- いろいろな活動や生活に、夢中になって取り組む子どもの姿を、“～したいなあ”と思わず遊びたくなる姿、“もっとやりたいなあ”と繰り返し遊び込む姿と捉え、幼稚園という集団生活の中で、自己を十分に発揮し、コミュニケーションを通して人とかかわることが、生きる力を育むことにつながる。
- 教師は子ども達が思わず遊びたくなるような、また気持ちを掻き立てるような場づくり、いろいろな人との出会いの場づくり、子どもが試行錯誤できる場づくりとその時間の保障をする必要がある。そして、幼児の思いに共感したり、かかわり方を知らせたり、かかわりをつないだり、イメージを広げたりなどの援助が大切であること。
- 子ども達が、幼児期に経験すべきことに意欲的にまたじっくりと取り組み、満足感や達成感を味わい、そこからいろいろなことに好奇心をもつように援助していくことで豊かな経験から様々なことを学び、獲得した学びは生きる力となり、小学校以降の学習につながる。

以上のようなことを考え、本年度は、実践的な学びを大切にしながら、幼児期にふさわしい経験を積み重ねることができるよう環境構成や援助を考え深めながら、教師としての資質向上を図る研究をすすめていきたい。そのためには、教師は子ども達が思わず遊びたくなるような、また気持ちを掻き立てるような場、いろいろな人との出会いの場、子どもが試行錯誤できる場をもち、その時間の保障、また幼児の思いに共感したり、かかわり方を知らせたり、かかわりをつないだり、イメージを広げたりする援助のあり方を探っていきたい。

特に、「学びの過程表」を作成して、夢中になって遊び込める環境設定や教師の支援の方法を事前に書き込み、それをもとに保育の実際を記録し、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点から考察し、協議することにより、子どもも教師も高まる研究になることを願っている。

